

ろうか、又金代にはどのようなになっていたかについても何にか資料がないだろうか。

(塚本 俊孝)

### George Vernadsky: The Mongols and Russia, 1953, Yale University Press.

第二次大戦中、私達は交戦面を除いては外國との直接交渉を断ち切られてしまったので、心ならずも海外で發表された諸研究を參看する機會を得なかった。然し終戦後十年の今日では略々戦前の様に之等の諸研究を目撃する事が出来る様になったのは何としても喜ばしい限りである。戦前から蒙古史について多少關心を持っていた私は、最近はこちらからこの方面の權威者であるアメリカのエル大學教授ジョージ(ギオルギイ)ヴェルナドスキーの三部作ロシア史の中、The Mongols and Russia, Yale University Press, 1953 by George Vernadsky を入手したので茲にその内容を紹介し聊か批評を加えたいと思う。

ヴェ氏には別に一九二九年に刊行され、一九五一年までに十七版を重ね三度増訂された矢張り同大學出版の A History of Russia があるが、これは最近二冊本として邦譯上梓されている。

さてヴェ氏の三部作ロシア史の方は名稱は同じであるが、前者より餘程詳細で、

### A History of Russia. I. Ancient Russia, II. Kievan Russia, III. The Mongols and Russia

となっている。第一部古代ロシアではロシア史の原始時代から九世紀の北歐人の侵入までが扱われるが、著者はこの古代の背景を考古學者或は古代史家としてでなく、ロシア史家として扱っている。即ち

ちロシア史の有機的、一部分としてである。次の第二部キエフ・ロシアでは北歐人の渡來から蒙古人の侵入迄の時代が扱われる。此時代は古代キエフ以前ロシアよりも可成りよく知られている。そして重要な證據である當時書かれた文書があるが、これは同時代の西歐の研究に役立つ文書に較べれば僅かである。

第一部古代ロシア、第二部キエフ・ロシアは手許にないので直ちに第三部蒙古人とロシアに移ろう。

第三部の内容は五章に分れ、第一章蒙古人の征服、第二章蒙古帝國、第三章金帳汗國、第四章金帳汗國の崩壊とロシアの復活、第五章ロシアに對する蒙古人の影響である。そして附録として略號表、史料表、書籍解題、家系表(チングス汗家、ベルシアのイル汗家など)が加えられ、更に事項、人名索引、引用著者索引と五葉の地圖が添えられている。

本書述作の趣旨は序文に著者が云っている様に、蒙古時代のロシア史ではなく同時代のロシアと蒙古人との相關關係を明かにするのであって、又その點から蒙古人治下のロシアの社會、經濟、文化生活などの面については言及されていない。

私はロシア史の専門家ではないので、ここではチングス汗時代を中心として、これについてのヴェ氏の見解に二、三の論評を加え度いと思う。

先ず第一章第一節の蒙古人伸展の世界的様相の中で、ヴェ氏は十三世紀初頭に蒙古人の中に突如として攻勢的エネルギイが爆發したのは、依然として心理的謎であると述べているが、これは唐代に漢文化が頂點に達し爛熟頽廢の結果、これまで漢人に抑えられていた中國周邊の弱小民族がその勢力を擡頭して、先ず鞏鞏は渤海を興

し、契丹は遼を建て、女眞は金を起したが、これと同じく蒙古は元帝國を作し、その位置上歐洲方面まで發展したものと解せられる。

次に同じく第一章第四節テムチンの興起では、チンギス汗の先祖で十二代のドブン・メルゲンの妻アラン・ゴア（アラン族の美女の意）が夫のドブン・メルゲンの死後、夫なしでブクカタギ、ブカサルヂ、ボドンチャルの三子を生んだのは、處女マリア傳説の移入であるとするのは當時蒙古部の南方にあったケレイト部がネストリウス派のキリスト教を信じ、その酋長ワン汗をプレスター・ジョンとする説が行われた位であるから妥當の様に解せられる。

さて同じ章節でテムチンは貴族階級の代表であり、彼の好敵手ジャムガは庶民階級のそれであると言ふ Barthold の説は、Vladimirsov によつて最初支持され後反對されたが、ヴェ氏も同じく反對している。そして共に貴族階級とする。私は然しテムチン、ジャムガを貴族階級とする説には反對で、當時の蒙古社會にはわが上代の様に氏族制度は行われたが、階級制度が存在したとは考えない。これは後にフビライ時代に蒙古・色目・漢人と云う様に、蒙古人全体が一階級として扱われたことが之を證明する様である。

第一章第五節は蒙古帝國の建設であるが、此項ではチンギス汗の稱號が論議されている。先ずペリオの説として Chingis はトルコ語 dengiz（近代トルコ語 deniz）即ち海を擧げる。次はエリヒ・ヘニシュの説でチンギスはシナ語眞とする。次はラシド・エツヂンの説で盛大なる、或は偉大なるの謂である。そして最後にカラ・ダワンの説でチンギスは西部蒙古語で（即ちオイラト或はカルムイク語）強大な或は強壯な謂であると言ふが、ヴェ氏は自説は出していない。マルコ・ポーロ第二卷第九章によると、フビライには四人の皇后

に二十二人の男子があり、長男はチンキンと云うが、これはチンギス汗の名にちなんてつけられたと云う。マルコ・ポーロの所傳に誤が無いとすれば、チンキンは眞金と元史に見えているから、ヘニシュの説が妥當の様に思われる。但し眞金が或る蒙古語の寫音にすぎないとすれば、結論は別である。

さてユール・コルヂエ注マルコ・ポーロによると、ハンマー・ブルグシュタールを引いてチンキンには「Ei」<sup>1</sup>と云う兄があると云う。今元史宗室世系表によると、世祖皇帝十子長朮而只其次二皇太子眞金即裕宗也……とあつて朮而只は「Ei」<sup>2</sup>と思われるからマルコ・ポーロのチンキンを長男とする説は誤と知られる。

尙マルコ・ポーロには、フビライには四人の皇后があると云うが、元史后妃表によると、世祖には四つの斡耳朵があると云うのと同じである。但し元史によると、皇后の實數は七人で、大斡耳朵は帖古倫大皇后、第二斡耳朵は察必皇后、南必皇后、又第三斡耳朵は塔剌海皇后、奴罕皇后、そして第四斡耳朵は伯要元眞皇后及び闊々倫皇后である（因みに元眞即夫人であることは云う迄もない）。

次にヴェ氏に特異な論説として、第二章第五節の蒙古人の皇帝思想の項が擧げられると思う。：皇帝思想は實際封建化された氏族社會の幼稚な知性を壓倒して蒙古人の征服を推進する精神に於て異色ある特性であつた。蒙古の皇帝達は、彼等の戦いを世界的平和と國際間の安定を得るために公告された目的をもつて遂行した……とヴェ氏は説明し、進んでクユク及びマングの書簡並にマングの勅令の三種の文書にもついで、皇帝權の蒙古人の概念に於ける三つの基本的要素を次の表によつて示している。即ち

一、神（天——永遠の蒼空）

二、チンギス汗（天から興えられた）

三、現在統治する皇帝

である。即ちこの三要素が合成されたものが、蒙古人の皇帝權の概念であると云う。蒙古人がわれ／＼が眼に見る蒼空そのものを崇拜したことは、元朝秘史にもその例が見えている。又マルコ・ポーロの第一卷五十三章によると、タタール人は天の神に心身の健康を祈

りナティガイと云うフェルトと布地で作られた地の神に子供や家畜や穀物の保護を祈ると記されている。

そして元代蒙古人の拜天思想をシャーマニズムとしてでなく中國の祭天思想と結び付けて考えれば、更に興趣が深い様に思われる。

（駒井 義明）

## 昭和二十九年京都大學文學部東洋史關係

### 講義題目（二）

#### 梵語梵文學

講義 印度文學史

研究 印度詩論

De Vocalismo indo-iranica

古代印度の科學思想

演習 Vetlapancavinçatika

Raghu-Vaiṇça

パフラヴァー語

Saddharmapuṇḍarika

伊藤 講師二

足利 教授二

伊藤 講師二

善波 講師二

足利 教授二

足利 教授二

伊藤 講師二

善波 講師二

### 語學 梵語文法

アラビア語

パリー語

ヴェーダ梵語

ヒンディー語

近代ベルシア語

善波 講師二

藤本 講師二

善波 講師二

伊藤 講師二

澤 講師二

澤 講師二

### 前號補正

東洋史

追加研究 秦漢社會經濟史

變更演習 K. A. Wittfogel: History of

Chinese Society—Liao—の講讀

宇都宮講師三〇

田村 教授二